

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 本能デイサービスセンター

1 施設の管理運営

【開所日及びサービス提供時間】
年中無休 午前9時30分～午後4時45分
【利用定員】
35名
【送迎実施地域】
京都市中京区（下立売通以南・西大路通以東・河原町通以西）、
上京区（下立売通以南・河原町通以西）、下京区（花屋町通以北・西大路通以東・
河原町通以西）、右京区（西大路通以東）

2 事業実施内容

(1) 指定管理業務（本来業務：老人デイサービスセンター）
老人デイサービスセンター

(2) 指定管理業務（企画提案業務：指定管理者が提案し、施設内で実施している業務。例

自主事業の実施状況は、以下の通り。

3 サービス提供状況

【職員体制】
施設長1名、副施設長1名、介護支援課長1名、生活相談員4名（兼職）、看護師2名、介護職員10名、管理栄養士2名、機能訓練指導員2名（兼職）

再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務）

- ・給食調理業務

4 市内中小企業への発注に対する考え方

市内中小企業に事業を委託する場合は、以下の考え方に従って業者選定をしている。

委託への考え方

- (1) 業務内容が専門的な知識を必要とし、かつ施設内の職員では対応が困難な業務の場合。
- (2) 法人が専門的に行う業務ではないため、専門に行う業者のほうがより効率的に、かつ質の高いものを提供できると判断できる場合
- (3) 業務内容は簡易であるが、行う人材を集めることが容易でない場合、その業務を行える人材を集めることに特化した業者がある場合

また、備品購入等の発注については、市内の業者を優先して活用している。

5 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1)延べ利用者数（実績値）

①令和5年度実績値 人

②令和6年度目標値 人

(2)稼働率（実績値）

①令和5年度実績値 %

②令和6年度目標値 %

(3) 収支実績

ア 本来業務（老人デイサービスセンター）

介護保険収入	110,591,076
利用料収入	10,413,772
委託料収入	
補助金収入	2,958,717
寄付金収入	
雑収入	16,550
その他	7,036,846
収入計	131,016,961

令和5年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

人件費	88,650,688
事業費	12,026,167
委託費	6,317,123
小額修繕費	499,790
その他	27,448,937
支出計	134,942,705

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

毎年ご利用者・ご家族へのアンケート調査を実施している。アンケート結果は集計後、部署会議で検討し、利用者・家族へ検討結果を書面でお知らせしている。日頃の様子は、送迎の際に口頭でお伝えするとともに、困りごとがないかなどもお聞きしている。お伺いしたことについては、申し送り時に報告している。その他、ご利用者ごとに連絡ノートを作成し、ご家族との日頃の情報交換を密に行う事で、ご利用者の満足度を把握するように努めている。

(2) 利用者満足度把握の結果

結果については、適宜、利用者及びご家族へ返答すると共に、ケア内容やケアプラン等に活かしている。また、アンケート結果については、送付をして周知をしている。

(3) 意見等への主な対応状況

申し出があった場合は、当該職員や利用者及び家族から聞き取りを行うなど、実態調査を実施し、一両日中に回答している。その内容や経過については、調査結果を代表者会議や各部署の会議で報告し、様々な職員が共有できるようにしている。これら利用者・家族のご意見を踏まえ、サービスの質の向上に向けて、法人・施設内研修の充実、法定基準以上の人員配置、居住環境の改善などに取り組んでいる。

7 その他特記事項

(1)

新型コロナウイルス感染予防のため、施設内外の行事の中止や規模縮小を行ってまいりましたが、少しずつだが制限を緩和している。地域の一員としての関わりをより増やしていけるよう取り組んでいく。

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

- (1) いかなる障害があろうとも尊厳のある暮らしを支援するために、徹底した倫理教育・研修を行うと共に、職員自身が自身のケアや対応を見直す機会が定期的に持てるような仕組み構築し、どの職員も、誰に対しても丁寧な言葉遣いに対応ができるようにすることで、指定管理施設に相応しい運営管理ができていますと評価する。
- (2) 指定管理施設として、社会資源の有効活用を更に推進するため、新規入居者の速やかな入居支援や特養入院者が出た場合のショートステイ利用の促進を図っている。
- (3) 近隣住民や地域社会との関係性を重視し、日頃から顔の見える関係性の構築と維持に努めてきた。新型コロナウイルス感染症の影響は多分にあったものの、その程度のことでは関係性が希薄になるようなものではなく、深い絆で地域住民の方とつながっていることが改めて実感できた。
現在も変わらず声をかけてくださり、施設の入居者のことを地域の皆様が気にかけてくださっていたことに感謝するとともに、これまで取り組んできた、地域に根差した施設運営がしっかりと行き届いていた結果として評価できると考えている。今後も地域のまちづくりへの貢献が再びできるように取り組んでいきたい。